

常潤の誉れ

鹿児島県立加世田常潤高等学校

果樹の接ぎ木 高校生に指導

鹿児島・
JA南さつま

【鹿児島・南さつま】県立加世田常潤高校の食農プロデュース科果樹班は、JA南さつまの職員を迎えて果樹の接ぎ木の講習を行った。上舞拓也営農指導員が講師となり、2、3年生12人が指導を受けた。

同校は2018年から、南さつま市加世田の川畑地区が原産で古くから栽培されていた「川畑みかん」の復活に向けたプロジェクトを進める。

「川畑みかん」は、「日向夏」に似た淡い黄色で、ユズのような爽やかな香りとほのかな甘味が特徴。約20年前まで同地区の各家庭の庭先で栽培されていたが、現在は数本しか

確認できないという。

生徒は、地域住民や関係機関の協力の下、「川畑みかん」の収穫や果実を使ったゼリーの開発を目標に、栽培管理や技術習得、情報収集に取り組む。

岩田晴紀さんは「学んだ技術を川畑みかん栽培に生かしたい」と話した。